

# 古河電工

## 古河電気工業株式会社

2022年3月期 第3四半期決算説明会

2022年2月3日実施

### [登壇者]

1名

取締役 兼 執行役員常務 財務・グローバルマネジメント本部長

福永 彰宏 (以下、福永)

- Q3累計実績は前年同期比で増収・増益
- Q3単期実績は自動車部品事業での一過性費用  
(主にコロナ影響による11月下旬以降の緊急輸送費 約50億円)  
の発生等により、各段階利益において赤字に
- 通期見通しは、実績および今後の見通しを踏まえ下方修正

**福永**：福永でございます。本日はよろしくお願いたします。お忙しい中ご参加いただき、大変ありがとうございます。

それでは私より、2021年度第3四半期決算について説明いたします。

まず、3ページでございます。決算のポイント三つございます。

Q3累計実績は前年同期比で増収増益となりました。一方で、Q3単期の実績は自動車部品事業での一過性費用の発生等により、各段階利益において赤字となりました。

通期見通しは、実績および今後の見通しを踏まえ、下方修正しております。

# 2021年度Q3決算のポイント

## ■売上高・営業利益

主に自動車部品事業での顧客減産・コロナ影響（11月下旬以降の緊急輸送費の一過性費用の発生約50億円等を含む）、グループ全社における輸送費・材料費の増加などはあるも、昨年のコロナ影響からの需要回復機会を着実にとらえ、インフラと機能製品セグメントは増収\*1増益

## ■経常利益

営業利益の増益、持分法投資損益改善により増益

## ■親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益の減少（104→4億円）\*2により、親会社株主に帰属する当期純利益は33億円

	FY19_Q3 累計 a	FY20_Q3 累計 b	FY21_Q3 累計 c	前年比 c-b
売上高	6,762	5,630	6,709	+1,079
営業利益	153	▲7	51	+58
経常利益	139	▲38	103	+140
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	5	33	+29
銅建値 平均	689	714	1,111	
為替 平均	109	106	111	

\*1 銅値上昇の影響：+375億円（714円/kg→1,111円/kg）  
「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等適用の影響：▲363億円

\*2 FY20\_Q3累計特別利益： 固定資産処分益221億円

それでは、詳細の説明に入ります。4 ページご覧ください。

Q3 決算につきましては、売上高、営業利益は増収増益でございます。主に自動車部品事業での顧客減産、コロナ影響、グループ全社における輸送費・材料費の増加はあるんですけども、昨年のコロナ影響からの需要回復機会を確実に捉え、インフラと機能製品セグメントは増収増益となっております。

経常利益は、営業利益の増益、加えて、UACJ が主なものですが、持分法投資損益の改善により増益となっております。

親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益は減少しておりますけれども、前年度比では Q3 累計で増益となっております。

# 2021年度Q3実績—要約P/L

FURUKAWA  
ELECTRIC

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY19Q3累計		FY20Q3累計		FY21Q3累計		前年比		主な増減内訳 (Q3累計前年比)
	a	10-12 a'	b	10-12 b'	c	10-12 c'	c-b	10-12 c'-b'	
売上高	6,762	2,210	5,630	2,086	6,709	2,237	+1,079	+151	+1,079億円(+19%) 6ページ参照
営業利益	153	45	▲7	26	51	▲22	+58	▲48	+58億円
(率)	2.3%	2.0%	▲0.1%	1.3%	0.8%	▲1.0%	+0.9	▲2.2	7ページ参照
持分法投資損益	13	15	▲5	6	61	17	+65	+11	
為替損益	▲4	4	▲9	▲5	8	4	+16	+9	
経常利益	139	55	▲38	22	103	▲5	+140	▲27	+140億円
(率)	2.1%	2.5%	▲0.7%	1.0%	1.5%	▲0.2%	+2.2	▲1.3	
特別損益	11	▲10	104	▲11	4	▲19	▲100	▲8	・特別利益：▲177 (231→54)
法人税等	67	25	46	13	54	6	+8	▲6	・特別損失：+77 (▲127→▲50)
非支配株主に帰属する 当期純利益	9	7	16	10	20	9	+4	▲1	
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	14	5	▲11	33	▲39	+29	▲27	+29億円(+622%)
(率)	1.1%	0.6%	0.1%	▲0.5%	0.5%	▲1.7%	+0.4	▲1.2	
銅建値 平均	689	683	714	792	1,111	1,149			
為替 平均	109	109	106	104	111	114			

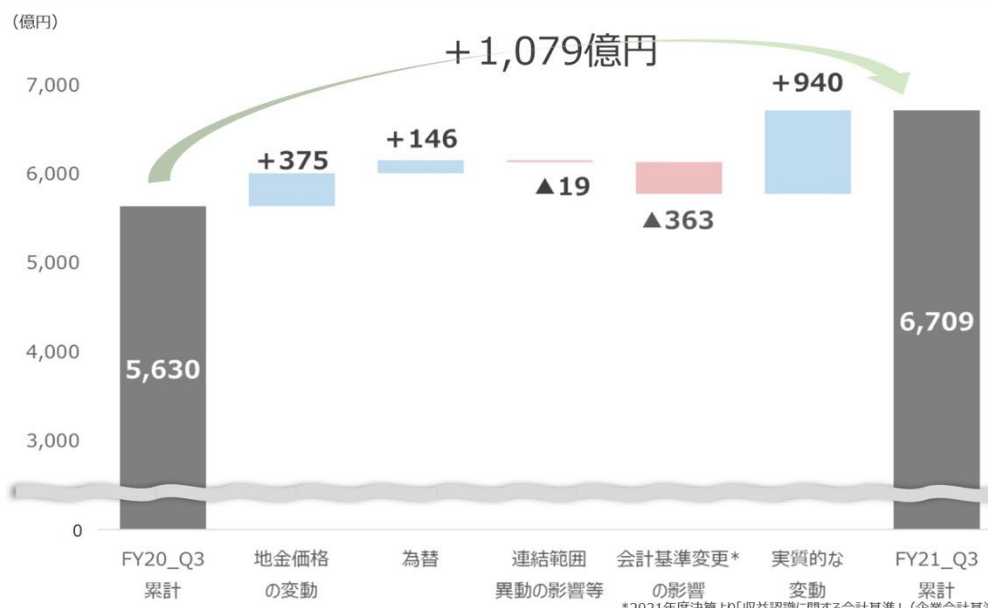
All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

特別利益：  
・過年度社会負担金還付額 (17：Q1)  
・固定資産処分益 (6：Q1)  
・投資有価証券売却益 (6：Q3)  
特別損失：  
・事業構造改革費用 (21：Q3)  
・新型コロナウイルス感染症による損失。(8：Q3)

5

続いて、5 ページでございます。こちらは要約 P/L ということで、ご説明かぶるところがございますので、割愛させていただきます。

# 売上高の増減要因（前年比）



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

次の6ページは、前年比でのQ3累計の売上高の増減要因でございます。

売上高に関しましては、1,079億円の増収でございます。内訳で主なものは、地金変動の影響、こちらは銅価が上昇しておりますこと、375億円と非常に大きくなってございます。そのほか為替に関しまして、外貨建ての部分が高くなっている、円安、外貨高といったところで、プラスという方向に働いております。

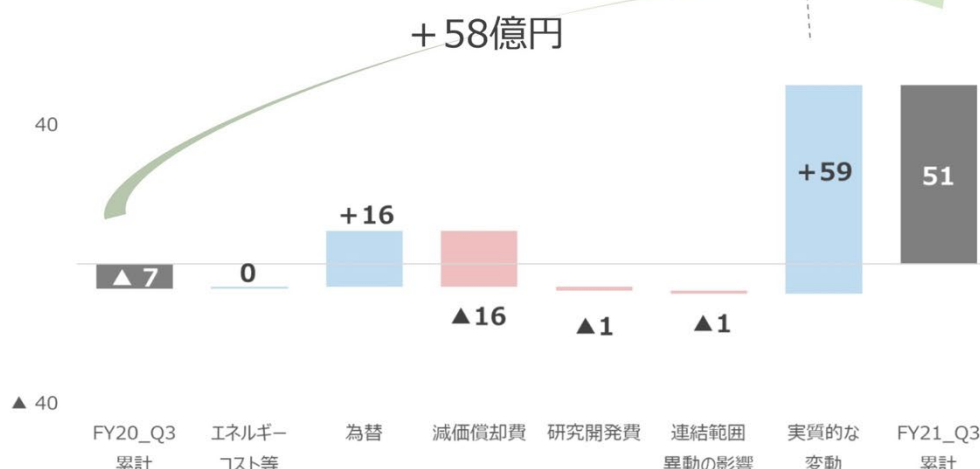
一方で、会計基準の変更の影響はマイナスに働いており、実質的な変動は940億円となりました。

## 営業利益の増減要因（前年比）

FURUKAWA  
ELECTRIC

(億円)

売上増減・品種構成差・原価低減等： 約+215億円  
 材料費・輸送費高騰、増加の影響： 約▲125億円  
 固定費（減価償却費・研究費除く）： 約▲30億円



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

7

これを受けまして、ページ 7、営業利益の増減要因のウォーターフォールでございます。

主なものは、為替の影響。われわれどもの為替の感応度、1 円円安でいたい 3 億円程度プラス方向に働きます。5 円程度円安に振れていますので、今回 16 億円のプラスになりました。

一方で、減価償却費は、ほぼ同額マイナスとなっております。

この結果、実質的な変動額は 59 億円。内訳は、売上・品種構成・原価低減、こういったことで 215 億円のプラス。

一方で、材料費・輸送費の高騰、あるいは増加、こういった影響で 125 億円のマイナスとなっております。

また固定費は、減価償却費・研究費を除いて、マイナス 30 億円となっております。

材料費・輸送費の内訳ですが、材料費が約マイナス 50 億円、輸送費がマイナス 75 億円。さらにそのうち、自動車がマイナス 50 億円といった内容でございます。

固定費は、増加額、第 2 四半期末からの増減はございません。内容としましては、従前の説明と同様ですが、コロナからの回復による工場の間接人員等を適正レベルに戻したということ。また、基幹システムの稼働が始まるということでの償却費増といったものが含まれているということでございます。

# 2021年度通期予想

## ■ 2021年度通期予想見直し

- 主に自動車部品事業における、輸送費・材料費の増加や半導体・樹脂不足等による顧客減産により、営業利益を下方修正（セグメント別の内訳は11ページ参照）
- 営業利益の下方修正により、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益を見直し
- 成長投資と財務体質改善とのバランスをふまえつつ安定配当方針を継続し、期末配当予想については変更せず（年間1株当たり配当金（予想）：60円）

(単位：億円)

	FY19	FY20	*FY21 前回予想	FY21予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	d	d-b	d-c
売上高	9,144	8,116	8,800	9,000	+884	+200
営業利益	236	84	200	130	+46	▲70
経常利益	228	52	220	175	+123	▲45
親会社株主に帰属する 当期純利益	176	100	100	70	▲30	▲30
銅建値 平均	682	770	1,046	1,105	(Q4前提：1,085)	
為替 平均	109	106	107	111	(Q4前提：110)	

\*2021/11/4公表

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

9

続いて、9ページをご覧ください。2021年度の通期予想でございます。

通期予想に関しましては、冒頭に申し上げましたが、大変申し訳ございません。下方修正とさせていただきます。

売上は、銅価の上昇もございますので、プラス200億円と増収ということになっておりますが、各段階損益、下方修正とさせていただきます。

主に自動車部品事業における、輸送費・材料費の増加、半導体・樹脂不足等による顧客減産といった要因で、営業利益を下方修正としております。

営業利益の下方修正に伴いまして、経常利益、親会社に帰属する当期利益も見直しをしておるところでございます。

また、配当に関してでございますけれども、こちらは従来からの方針を変えておりません。成長投資と財務体質改善のバランスを踏まえつつ、安定配当方針を継続してまいります。

期末配当予想については60円。年間1株当たりは、据え置きとさせていただきます。

# 2021年度通期予想—要約P/L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY19	FY20	*FY21 前回予想	FY21 予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	d	d-b	d-c
売上高	9,144	8,116	8,800	9,000	+884	+200
営業利益	236	84	200	130	+46	▲ 70
(率)	2.6%	1.0%	2.3%	1.4%	+0.4	▲ 0.8
持分法投資損益	25	▲9	-	-	-	-
為替損益	▲ 10	5	-	-	-	-
経常利益	228	52	220	175	+123	▲ 45
(率)	2.5%	0.6%	2.5%	1.9%	+1.3	▲ 0.6
特別損益	80	161	▲ 15	2	▲ 159 *	+17
法人税等	118	92	-	-	-	-
非支配株主に帰属する 当期純利益	14	21	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	176	100	100	70	▲ 30	▲ 30
(率)	1.9%	1.2%	1.1%	0.8%	▲ 0.5	▲ 0.4
銅建値 平均	682	770	1,046	1,105	(Q4前提：1,085)	
為替 平均	109	106	107	111	(Q4前提：110)	

\*2021/11/4公表

\* FY20特別利益：  
固定資産処分益221億円

続いて、10 ページをご覧ください。こちらは先ほどの予想の P/L の明細ということになります。内容はかぶりますので、こちらも割愛させていただきます。



# 2021年度通期営業利益予想について

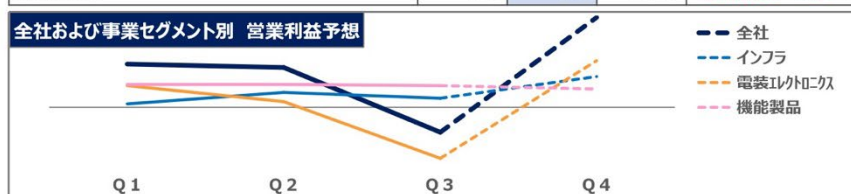
■自動車部品・電池事業（電装エレクトロニクス）、機能製品事業、情報通信ソリューション事業（インフラ）は  
下方修正。電装エレクトロニクス材料事業（電装エレクトロニクス）は上方修正

■Q4で自動車部品・電池事業（電装エレクトロニクス）の回復を見込む

（各セグメントの状況は13ページ以降を参照）

（単位：億円）

セグメント	サブセグメント	前回 予想	今回 予想	差異	主な修正要因（事業・製品）
インフラ	情報通信ソリューション	45	35	▲10	・光ファイバ・ケーブル製品（国内・北米）※13ページ～ 参照
	エネルギーインフラ	15	15	-	-
電装エレクトロ ニクス	自動車部品・電池	40	▲20	▲60	・ワイヤハーネス（東南アジア）※17ページ～ 参照
	電装エレクトロニクス材料	30	40	+10	・銅条・高機能材
機能製品		90	75	▲15	・機能樹脂 ※20ページ 参照



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

11

11 ページをご覧ください。こちらは営業利益の下方修正の内訳でございます。

サブセグメントで見えてまいりますと、やはり自動車部品・電池がマイナス 60 億円と、一番大きな数字となっております。これ以外には、機能製品でマイナス 15 億円、情報通信ソリューションでマイナス 10 億円となっております。

電装エレクトロニクス材料は 10 億円、こちらは上方修正で、こちらの合計値が営業利益の下方修正ということになっております。

# セグメント別売上高および営業利益

## ■ 通期予想見直し

【参考】  
会計基準変更前の場合の売上高

(単位：億円)

	Q3累計				通期						Q3累計				通期	
	FY19	FY20	FY21	前年比	FY19	FY20	*FY21 前回予想	FY21 予想	前年比	前回予想比	FY21	前年比	FY21 予想	前年比		
	a	b	c	c-b	d	e	f	g	g-e	g-f	c'	c'-b	g'	g'-e		
<b>売上高</b>																
インフラ	2,041	1,853	2,173	+320	2,809	2,592	2,900	2,900	+308	0	2,207	+354	2,961	+369		
情報通信ソリューション	1,217	1,134	1,398	+264	1,664	1,583	1,850	1,850	+267	0	1,388	+254	1,852	+269		
エネルギーインフラ	823	719	775	+56	1,145	1,009	1,050	1,050	+41	0	819	+100	1,109	+100		
電装エレクトロニクス	3,788	2,901	3,537	+636	5,093	4,330	4,700	4,800	+470	+100	3,819	+918	5,176	+846		
自動車部品・電池	1,854	1,562	1,724	+162	2,576	2,351	2,450	2,400	+49	▲50	1,784	+222	2,480	+129		
電装エレクトロニクス材料	1,934	1,338	1,812	+474	2,517	1,980	2,250	2,400	+420	+150	2,034	+696	2,696	+716		
機能製品	879	838	980	+142	1,159	1,147	1,300	1,300	+153	0	1,026	+188	1,362	+215		
サービス・開発等	388	293	269	▲24	503	387	350	350	▲37	0	270	▲23	351	▲36		
連結消去	▲333	▲254	▲249	+5	▲420	▲340	▲450	▲350	▲10	+100	▲249	+5	▲350	▲10		
連結合計	6,762	5,630	6,709	+1,079	9,144	8,116	8,800	9,000	+884	+200	7,072	+1,442	9,500	+1,384		
<b>営業利益</b>																
インフラ	3	▲37	23	+60	17	▲21	60	50	+71	▲10						
情報通信ソリューション	2	▲16	15	+31	16	▲2	45	35	+37	▲10						
エネルギーインフラ	1	▲21	8	+29	1	▲19	15	15	+34	0						
電装エレクトロニクス	100	6	▲21	▲27	148	59	70	20	▲39	▲50						
自動車部品・電池	74	4	▲57	▲61	109	50	40	▲20	▲70	▲60						
電装エレクトロニクス材料	26	2	36	+34	39	9	30	40	+31	+10						
機能製品	54	37	59	+22	75	63	90	75	+12	▲15						
サービス・開発等	▲3	▲14	▲10	+5	▲3	▲17	▲20	▲15	+2	+5						
連結消去	▲1	1	▲1	▲2	▲1	1	0	0	▲1	0						
連結合計	153	▲7	51	+58	236	84	200	130	+46	▲70						

\*2021/11/4公表

続いて、12 ページでございますが、こちらは通期予想のセグメント別、あるいはサブセグメント別の詳細でございます。個別には次ページ以降でご説明いたします。

## 1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

### FY21\_Q3累計実績



#### 【Q3累計実績：営業利益対前年比】

- (+) 北米光ケーブル、南米FTTH、LANソリューションで増収
- (+) 北米光ケーブルの生産性は改善
- (+) 特殊ファイバ好調
- (+) デジタルコヒーレント関連製品はQ3から需要・生産ともに回復
- (+) 国内ネットワーク関連製品は堅調
- (-) 北米顧客向け光ファイバ素線販売の減少
- (-) 原材料不足・価格高騰や輸送費高騰
- (-) 減価償却費の増加

### FY21\_通期見通し



#### 【通期見通し】

- ・ 北米（ローラブルリボンケーブル、接続部品等）、南米（ソリューション）いずれも好調。特殊ファイバも好調継続。
- ・ 北米顧客向け光ファイバ素線販売が当初想定に比べて回復遅れ
- ・ 光ファイバのコストダウン施策の効果発現遅れ
- ・ 原材料価格、輸送費の高騰には、購入先変更、販売増、品種構成改善、原価低減、経費抑制および販売価格水準の適正化等に対処中

続いて、13 ページをご覧ください。情報通信ソリューションの状況でございます。

Q3 累計実績は、前年比、増収増益でございます。通期見通しも、前年比で見ますと増収増益という結果でございます。

一方で、予想に関しましては、繰り返しになりますけれども、前回 45 億円と見通していたものを 35 億円と、10 億円下方修正させていただいております。

左下の記載が、Q3 累計での営業利益の前年比の比較でございます。こちらの傾向は第 2 四半期までとほぼ同様でございます。北米の光ケーブル、南米の FTTH、LAN ソリューションは増収です。北米光ケーブルの生産性も、前年に比べると改善は進んできております。

また、昨年はコロナ影響でかなり落ち込んだ特殊ファイバ、通信用途以外の医療用であったり、産業用のものですが、こういった特殊ファイバが、今期は復調し、非常に好調に推移しております。

デジタルコヒーレント、国内ネットワークも堅調に推移しておるところでございます。

一方で、前回から継続しているところではございますけれども、北米のお客様向け。お客様の材料調達がなかなかできないというご事情から、工場があまり動かせていない状況から、光ファイバの需要が減っているということから、われわれ部分のお客さんでございますけれども、そこ向けの光ファイバ素線の販売が減少しております。

加えて、原材料不足。原材料の調達が不安定になっているという部分は継続しているとか、価格高騰、輸送費高騰といった影響は全般的に続いている。さらに、なかなか上げ止まらないということで、この上昇傾向が続いているところでございます。

減価償却費は、4 億円程度マイナスとなっております。

通期見通しに関しまして、北米の状況は Q3 までの状況が、さらに改善は進んでいくことを見込んでおります。南米も比較的好調な状況は持続する見込みです。特殊ファイバについても同様です。

一方で、北米の顧客向け光ファイバの素線販売は、当初見込んでいたよりは、Q4 に戻ってくるという予想が、当初見込みに比べて遅れているということで、マイナス要因となっております。

もう 1 点、第 3 四半期後半から、あるいは第 4 四半期には効果を発現させるという予定でした光ファイバのコストダウン施策の効果の発現、当初見込んでいたものが遅れてしまったということでのマイナス要因がございました。

また、原材料価格、輸送費高騰には 2 社購買、購買先変更、販売、品種構成の改善、原価低減、経費抑制といったところも進めておりますし、販売価格水準の適正化で対応しておるところでございます。

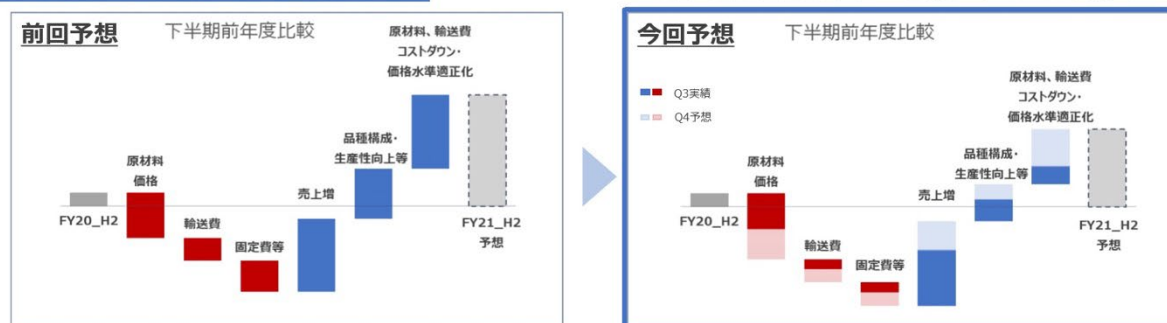
## 光ファイバ・ケーブル営業利益 下半期予想

前回予想と比較し売上増を見込むも、営業利益は下振れる見通し

## ■ 前回予想と今回予想の比較

- (+) ・売上増（光ケーブル：増、光ファイバ：減）  
 ・固定費抑制  
 ・品種構成改善
- (-) ・原材料価格高騰  
 ・生産性向上の遅れ  
 （北米：コロナ影響による一時的な出勤率低下）  
 （国内：合理化投資によるコストダウン効果発現の遅れ）  
 ・原材料・輸送費コストダウン・価格水準適正化目標未達

## 光ファイバ・ケーブル営業利益（下半期予想）



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

14

内容につきまして、詳細 14 ページをご覧ください。

光ファイバケーブルの営業利益が、下半期下方修正している中で、どういことが起きているのか、どういう内容なのか、どういう打ち手なのかといった辺りのご説明になります。

前回予想と今回予想の比較ということで、前回予想でお示したウォーターフォールが左側、今回の予想が右側のウォーターフォールとなります。

このスタート地点の棒グラフは、いずれも昨年度の上半期の数字でございます。これを見ていただきますと、売上増増加というところで、こちらはプラス側が広がっています。こちらは右のグラフ、真ん中の青い辺りを見ていただくと、売上増になっているところをご覧いただけるかと思います。

光ケーブルに関しては、増加。一方で、先ほど申し上げたような事情で、光ファイバについては減少するということで、ネットでは増加といった部分でございます。

また固定費抑制、品種構成改善も、ほぼ計画通り、あるいはそれを上回る形で進んでおるといところでございます。

一方で、原材料価格の高騰がなかなか高止まらない、上昇傾向が続いているということ。

生産性向上に関しましては、北米に関しては、次ページで詳細はご説明いたします。

コロナ影響による一時的な出勤率低下が、当初の見立てよりもマイナス要因となっております。

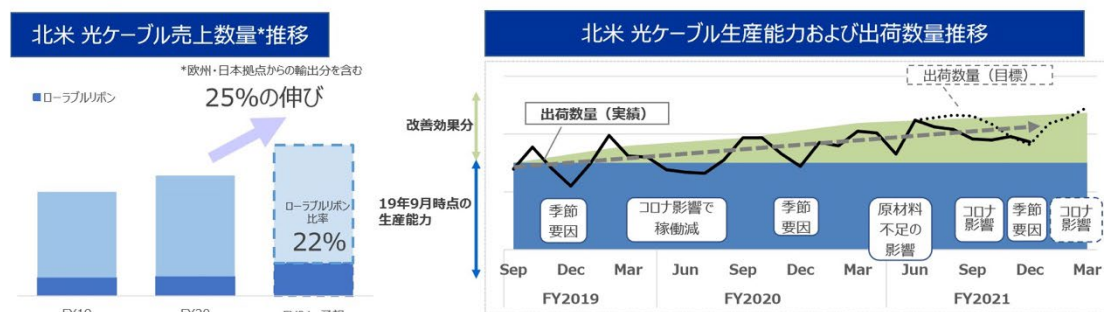
また国内も、先ほど申し上げたファイバのコストダウン施策の効果発現遅れということで、従前からのプラス要因として見込んだものの発現がずれ込むといった影響でございます。

また、原材料・輸送費コストダウン・価格水準適正化も、現時点では先ほど申し上げた、価格高騰が高止まってく  
る中での価格転嫁を進めていくところが、価格上昇が止まらない中で、そこが追いつききっていないところが、今  
の状況でございます。

## 1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

## 北米 光ケーブル：生産・出荷状況

- 全体の売上数量は想定以上の伸び、前年比で大幅増加。ローラブルリボンケーブルは前年比1.7倍
- 9月以降離職率は低位で安定。正規社員への転用プログラム、人材派遣会社の変更、従業員教育の充実、マネージャーの採用といった施策の効果が発現し、11月、12月は想定どおりの出荷数量を確保
- 1月以降も離職率は安定しているが、コロナの市中感染拡大による出勤率の低下により、操業が一時的に70%程度まで低下し、出荷数量は下振れ。感染はピークアウトしてきており、3月に向けては計画通りの出荷を見込む



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

15

続いて、15 ページでございます。北米の光ケーブルの生産・出荷状況の資料でございます。

北米光ケーブルの売上数量は、左下のグラフをご覧いただいたとおり、約 25%伸びております。これは生産性改善であったり、北米の非常に活況な市況であるというところで、われわれの生産能力が上がってきたところ、あるいは、しっかりと需要に対して応えられるようになってきたといったところでの伸びになります。

またローラブルリボンの比率も、前年度から 1.7 倍となっております。全体が伸びる中で比率も増えてきているということで、数量もかなり増えてきている状況でございます。

補足の情報としましては、22%、年度でならした数字ですが、12 月末時点ではローラブルリボンの受注残が 30%まできておるところで、比較的計画通りに戻ってきておるところでございます。

また、こちらも従前からの課題でした、従業員がなかなか安定しない、確保ができないということから生産性が伸びないということ、かなり苦戦しながら進めてきておりました。こちらが 9 月以降、離職率が低位で安定して、こちらは現在も安定しております。

正規社員への転用プログラム、人材派遣会社の変更、教育の充実、マネージャーの採用といった施策の効果が出てきているということで、11 月、12 月は、もともと操業日が短いホリデーシーズンということでの、シーズンリティ、季節要因での減少はありますが、計画通り、あるいは若干計画を上回るような出荷数量を確保することができました。

一方で、1 月以降、離職率は安定しています。重要な流れというのは、クリスマス休暇明け、ホリデーシーズン明けで、年が明けたところかどうか懸念されたところではございますが、こちらはそのままの状況は維持しております。

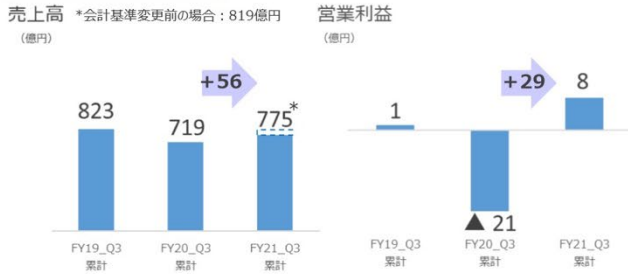
一方で、年末年始にかけて、オミクロン株がアメリカは日本に比べて早く感染が始まった。そのため、市中感染拡大で出勤率の低下がやはり起きてしまったということで、操業が一時的に70%程度まで落ちました。1月の半ばから回復はしてきておりまして、ピークアウトという格好にはアメリカはなっけてきておりますから、1月末、2月中にかけては、ほぼ従業員も戻ってきております。

ですので、1月の部分を一気に取り返すのは難しいというところはあるんですが、3月に向けては、今の状況を続けていくことにより、計画通りの出荷が見込まれると見ております。



## 1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

### FY21\_Q3累計実績



### FY21\_通期見通し



#### 【Q3累計実績：営業利益対前年比】

- (+) 海外海底線、国内地中線案件および中国子会社は想定通りの進捗
- (+) 収益性を重視した受注対応の効果および生産性の向上
- (+) 新規材料採用に伴う評価費用の一時的発生は2020年度で終了

#### 【通期見通し】

- 海外海底線、国内地中線案件および中国子会社は、概ね想定通りの進捗が継続
- 産業電線・機器は、機能線、部品等の拡販とさらなる原価低減を推進し黒字化

続いて 16 ページ、エネルギーインフラでございます。

こちらにつきましては、ほぼ計画通り、売上、利益とも進捗しております。内容についても前回とほぼ同様の記載となっております。

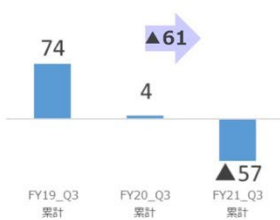
一方で、エネルギーインフラも、材料費・輸送費の増加の影響は受けております。しかし、こういう環境下ですが、電力が上振れていくとか、あるいは産業機器では苦戦しながらも、昨年赤字というところでマイナス要因でお話ししましたが、こちらが黒字化しておるといことで、全体では想定通りになります。

## 2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池)

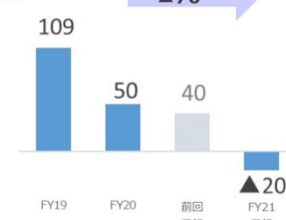
前年比

FURUKAWA  
ELECTRIC

## FY21\_Q3累計実績

売上高 \*会計基準変更前の場合：1,784億円  
(億円)営業利益  
(億円)

## FY21\_通期見通し

売上高 \*会計基準変更前の場合：2,480億円  
(億円)営業利益  
(億円)

## 【Q3累計実績：営業利益対前年比】

- (+) 自動車市場の回復、新車種立ち上げにより増収
- (-) コロナ影響による東南アジアの一部拠点のロックダウンに加え、11月後半からの一部地域での市中感染拡大による出勤率低下
- (-) 上記に対応し、供給責任を果たすためのBCM運用費用、緊急輸送費等の増加 (約▲50億円)
- (-) 輸送費・原材料価格高騰、物流混乱の影響
- (-) 半導体、樹脂不足等による顧客の減産影響
- (-) 減価償却費の増加

## 【通期見通し】

- ・ コロナ影響による東南アジアの稼働低下は12月後半より解消傾向
- ・ 半導体、樹脂不足等による顧客の減産影響継続
- ・ 顧客との交渉により、輸送費・原材料価格高騰分の販売価格への転嫁や緊急輸送費等の回収を促進
- ・ 生産性改善、固定費抑制

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

17

続いて 17 ページ、自動車部品・電池でございます。

自動車部品・電池は、Q3 の累計実績で売上は増えている。これは自動車市場のコロナからの回復というところもございまして、われわれどもの新車種の立ち上げといったところもございまして。そういった影響で増収となってはいるんですけども、利益は大幅な減益になっております。

こちらは、年度で見ましても、増収減益という結果になっております。

さらには、前回予想からもマイナス 60 億円という大幅な下方修正となりました。

あと左下のご説明ですけれども、プラス要因は先ほどお話ししましたが、マイナス要因の話を補足いたします。

2 行目のところ、マイナスの一番最初の記載です。コロナ影響による東南アジア一部拠点のロックダウン。こちらは昨年 6 月末あるいは 7 月あたりから 9 月にかけて、東南アジア一帯にデルタ株のかなり感染が広がったことで、一部拠点ではロックダウンという格好になりました。

一旦これは収束して、通常に戻っていて、今後も平常に戻ってくるであろう、さらには、お客様も半導体不足からの遅れを取り戻すであろうという見立てでございました。しかしながら、11 月後半から、一部拠点、実際にはベトナムになるんですが、ベトナムの中の一部地域で市中感染がかなり拡大しました。工場そのもののクラスターではないんですが、感染を恐れた従業員が出勤しないという状況になりまして、出勤率が大幅に低下した事態になりました。

こちらについては、次ページに、この状況あるいは現況、今後の見立てというところをご説明いたします。

これに対してわれわれは、お客様への供給責任をしっかりと果たさなければいけない、お客様のラインを止めてはいけない、これは当然の責任として対応いたしました。

そのために、実際にはフィリピンであったり、日本であったり、BCM 運用ということで、代替地での代替生産を行ったための追加コスト、あるいは生産量が落ちている中でもしっかり納期に間に合わせるための緊急輸送費、実際にはエア費になりますが、こちらが増加したということで、この影響がマイナス 50 億円と、こちらが非常に大きな数字として出ております。

加えて、一般的な話にはなりますが、輸送費、原材料価格高騰、物流混乱の影響は自動車事業そのものにも影響を及ぼしております。

また、半導体・樹脂不足等により、お客様の操業の不安定、減産というところも、これも新聞等で報道されている状況のとおりでございます。

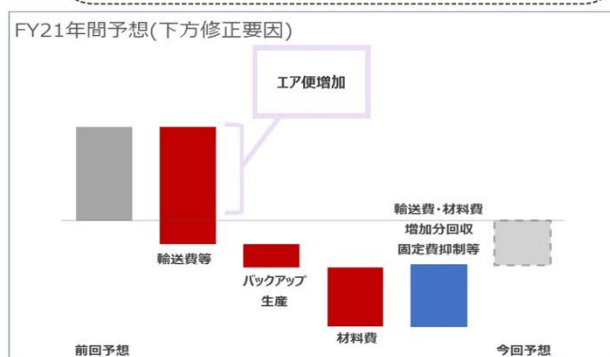
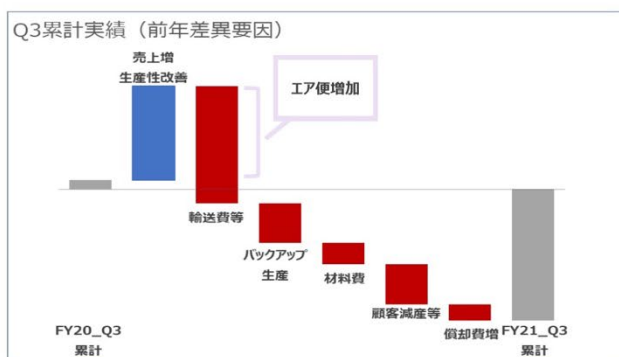
また減価償却費は、7 億円程度のマイナスが出ておるところでございます。

通期の見通しに関しましては、こういった左側に記載しているようなマイナス要因を、しっかり取り戻していくという活動になります。

## 自動車部品・電池事業：営業利益について

- 東南アジア一部地域でのコロナ市中感染拡大による出勤率低下  
(11月下旬以降低下し、一時出勤率は60%以下)  
⇒エア便の増加および国内物流混乱による輸送費増加

- ・ 従業員が安心して働くための対策を行政とも連携して実施  
⇒出勤率は12月後半から徐々に回復し、1月末時点では95%に
- ・ エア便から船便への切り替えを順次実施中  
国内物流混乱は現在はほぼ収束  
⇒次年度からの正常化を見込む



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

18

この詳細については、18 ページをご覧ください。自動車部品・電池事業の営業利益について書いております。

11月下旬から急に感染拡大、出勤率の低下が起きたことで、一時出勤率は60%以下になりました。これに対応するために、生産量が落ちた中で現地から物を送るため、あるいは代替地から送るといったBCM対応のため、エア便の増加、さらには日本に着いた後の国内物流の混乱もございました。そのために輸送費が大幅に増加したところが、Q3累計の状況でございます。

一方で、これに対して、従業員の方、感染が広がっている地域での従業員の皆様が安心して働けるための対策を、行政とも連携しながら実施してまいりました。接種率が低い地域ではあったんですが、行政と協力することによって接種率上げていく、実際に接種をしていくということ。あるいは、工場内でのコロナ感染に対する対応、これは検査を含めて、いろいろな策を打ちました。

その結果、出勤率は12月後半から徐々に回復というところですよ。12月末時点で90%程度に回復していました。そこはさらに改善は進んで、1月時点では95%と、ほぼ平常な状態に戻っている状況でございます。この結果、エア便で飛ばさなければいけないものが、徐々に船便に戻し始められていることで、順次切り替えを行っております。

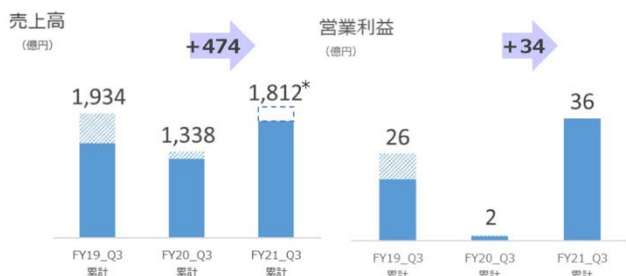
国内物流の混乱も、今現在はほぼ収束してきておるといことで、今の計画では、1月、2月、3月にかけて、少しずつ切り替わっていく。この結果、4月頭には正常化ということ、船便への切り替えを実現するというところでございます。

4クォーターは、その端境期と言いますか、改善していく時期にあたるということでご認識いただければと思います。

## 2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

### FY21\_Q3累計実績

\*会計基準変更前の場合：2,034億円  
銅価上昇の影響：310億円



### FY21\_通期見通し

2020年3月未まで銅管事業、2020年9月未まで太物巻線事業を含む  
\*会計基準変更前の場合：2,696億円  
銅価上昇の影響：390億円



#### 【Q3累計実績：営業利益対前年比】

- (+) 車載およびエレクトロニクス関連製品を中心に回復している需要を着実に取り込み
- (+) 戦略商品拡販による製品ミックスの改善、生産性の向上

#### 【通期見通し】

- 車載およびエレクトロニクス関連製品の需要は概ね堅調。着実に需要を取り込みつつ、戦略商品拡販による製品ミックスの改善をさらに推進
- 半導体不足等による市況の変動リスクに対し、サプライチェーン内での在庫調整の動向を引き続き注視

続いて、19 ページをご覧ください。電装エレクトロニクス材料でございます。

こちらにつきましては、Q2 までと状況はほぼ変わっていません。順調に業績推移しております。

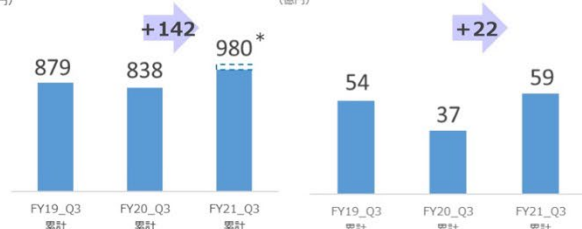
ただし、繰り返しになるところで恐縮ですが、サプライチェーンの上流工程にある事業でございます。そのため、半導体等こういった不足が遅れて影響が出てくる、市況変化の影響が遅れて出てくるというビジネスですので、その点については慎重に見なければいけないという認識を持っております。

そのため、やや保守的な形で年度は見積もっておる状況です。それでも、前回の 30 億円から 40 億円と、10 億円の増益という形にさせていただいております。

## 3 機能製品

## FY21\_Q3累計実績

売上高 \*会計基準変更前の場合：1,026億円 営業利益 (億円)



## FY21\_通期見通し

売上高 \*会計基準変更前の場合：1,362億円 営業利益 (億円)



## 【Q3累計実績：営業利益対前年比】

- (+) 銅箔は、台湾拠点の火災復旧による回路用銅箔の受注増および電池用銅箔の需要回復
- (+) 半導体、データセンタ関連製品等の需要取り込み
- (+) 放熱・冷却製品のフィリピン新拠点での製造本格化
- (-) 輸送費、原材料価格高騰の影響
- (-) 半導体、材料不足の影響による5G関連、データセンタ関連製品需要の一時的減速

## 【通期見通し】

- 輸送費、原材料価格高騰の影響は当初想定を上回る。注力市場における需要の確実な取り込み、拡販を継続し、価格水準の適正化、固定費の抑制により影響を最小化
- 半導体、材料不足の影響により、Q3以降5G関連、データセンタ関連市場では需要の一時的減速
- コロナ影響による国内建販市場向け新商品の上市遅れ

20 ページ、機能製品でございます。

機能製品に関しましては、前年比では Q3 累計、通期見通し、いずれも増収増益です。

ただし、前回予想からは 15 億円の下振れということで、90 億円から 75 億円に下方修正しております。こちらにつきましては、左側のプラス要因は、ほぼ Q2 までと同じ状況が継続し、プラスが積み上がってきている状況です。

一方で、輸送費・原材料価格高騰は、なかなか上昇が止まらないということで、Q3 には落ち着いて Q4 で価格転嫁、ここがバランスが取れてくると見込んでいたものが、右に記載がございますけれども、なかなかこの高騰が止まらないということで、価格転嫁で追いついたものがまた Q4 で出てくる、それをまた価格転嫁をする。

当然、コスト抑制であったり、原価改善は進めていくんですけども、価格高騰の上昇が、やはり想定を上回っている状況ではございます。

加えて、これは第 3 クォーターから少し影響は出始めてはいるんですが、半導体材料不足、これは従来、自動車あるいは電子機器メーカー等々、そういったところへも影響が出ておたんですけども、データセンタ向けにも影響が出始めたというのが、第 3 クォーターです。第 4 クォーターもこの状況が続くと見込まれています。

これがいつ解消するかというのは、お客様そのものの需要は非常に強うございます。調達環境、お客様側でここが改善すれば元に戻ると見ておりますが、これは来年度以降にずれ込むと見ておりますので、第 4 クォーター、この影響を織り込んだ上で、15 億円の下方修正につながっているとご理解ください。

# 2021年度Q3実績—要約B/S

	FY20_Q4末	FY21Q3末	増減
	a	b	b-a
流動資産	4,298	4,679	+381
現金及び預金	844	644	▲200
受取手形、売掛金及び契約資産	1,919	2,096	+177
たな卸資産計	1,208	1,552	+343
固定資産	4,022	4,160	+137
有形固定資産	2,467	2,517	+50
無形固定資産	203	197	▲6
投資その他の資産	1,352	1,446	+93
<b>資産合計</b>	<b>8,320</b>	<b>8,839</b>	<b>+519</b>
流動負債	3,152	3,485	+333
固定負債	2,252	2,398	+146
<b>負債合計</b>	<b>5,404</b>	<b>5,883</b>	<b>+479</b>
株主資本	2,604	2,592	▲12
その他の包括利益累計額	▲5	29	+34
非支配株主持分	317	335	+17
<b>純資産合計</b>	<b>2,916</b>	<b>2,956</b>	<b>+40</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>8,320</b>	<b>8,839</b>	<b>+519</b>
有利子負債	2,906	3,258	+352
自己資本比率	31.2%	29.7%	▲1.5
NET D/Eレシオ	0.8	1.0	+0.2

**受取手形、売掛金及び契約資産**  
177億円 増加  
売上増、為替影響、銅価上昇の影響

**たな卸資産**  
343億円 増加  
物流遅延に対する供給継続および自動車部品事業のコロナ影響による一時的増加  
将来売上計上予定のプロジェクト・工事案件等  
銅価影響、為替影響、新規連結の影響： +86億円

**有形無形固定資産**  
44億円 増加  
設備投資・減価償却費の影響： ▲9億円  
為替、新規連結等による影響： +55億円

**資産合計**  
519億円 増加  
棚卸資産増加： +343億円  
為替影響： +158億円  
新規連結の影響： +26億円

**NET有利子負債**  
552億円 増加  
(2,063億円→2,615億円)

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

21 ページ、要約バランスシートの資料でございます。

こちら、右側の下から 2 番目の枠、若干色がついているところですが、資産合計で 519 億円の増加となっております。この内容は、為替影響、新規連結の影響がございますけれども、これを除いても 340 億円程度増加という格好になります。

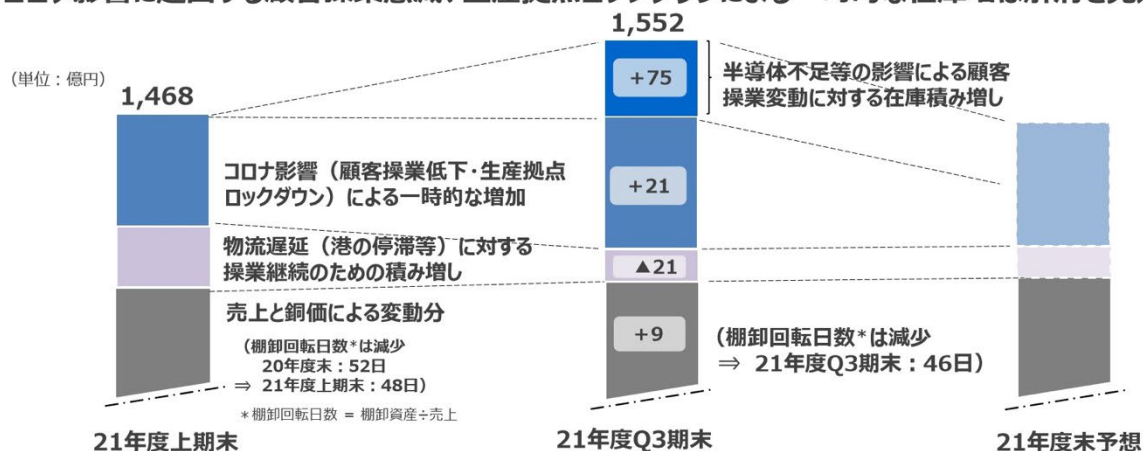
この内訳で一番大きなものは、上から 2 番目、棚卸資産の増加でございます。これは次ページでご説明いたします。

また売上の増加、為替の影響、銅価上昇、こういった影響で、受取手形、売掛金も増加しているというところがございます。

この結果、フリーキャッシュフローがマイナスになってしまうことから、NET 有利子負債は 552 億円の増加というのが、第 3 クォーター時点での状況でございます。

自己資本比率も、資産の膨らみが大きいという一方で、利益の積み上げが遅いというところで、数字としては達しておりますし、有利子負債の増加ということもございますので、NET 有利子負債、NET D/E レシオも、前期から悪化しているというところがございます。

- 上期末に対してQ3期末では物流遅延の影響は半減するも、コロナ影響による増加に加え、半導体不足の影響が顕在化し、在庫水準は上昇
- 年度末に向け、BCPに従った戦略在庫の確保に加え、半導体不足と物流遅延の影響等が残るもののコロナ影響に起因する顧客操業急減、生産拠点ロックダウンによる一時的な在庫増は解消を見込む



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

22

棚卸資産についての詳細説明が、22 ページとなります。

棚卸資産は、上期末の状態、同じようなグラフでお示しておりましたが、1,468 億円という数字となっております。こちらは 2020 年度末から比べると、この一番上の段、コロナ影響が 115 億円ほどありましたというご説明をしております。物流遅延によるものが 50 億円とご説明させていただいております。

この状況が、第 3 クォーター末ということで、真ん中の棒グラフになります。これが物流混乱は 50 億円から 30 億円ということで、20 億円ほど減っています。

一方で、コロナ影響の部分に加えて、半導体不足とか、顧客の操業変動に対する在庫の積み増しがより増えています。特に自動車関係、急激に立ち上がるという部分もございます。それにわれわれ自身、しっかりついていかなければいけないということで、その分をさらに方策として積み上げている。自動車事業の急激な立ち上がりに対応できるようにするというもの。

加えて、昨今物流の混乱もございまして。天変地異というような部分での突然の操業が止まるというリスクで、われわれの調達に影響が出る可能性もあるという中で、われわれの原材料の確保を進めるということで、戦略的に 75 億円を増やしているところがございます。

コロナ影響は、自動車関係が混乱したということで増えている。こちらを 2021 年度末に向けては、2021 年度上期末というレベルには戻していくという予定でございます。



一番下の棒グラフは、売上が増えている、銅価が上昇しているということで、これは棚卸資産を適正化していく中のわれわれの活動の中で把握し、コントロールしているものでございます。こちらは年間では 110 億円、昨年度末から増加しているということでございます。

# 2021年度Q3実績・通期見通し

設備投資額・減価償却費・研究開発費

FURUKAWA  
ELECTRIC

- 設備投資額については、需要動向をふまえた実施時期の見直し、投資内容の再精査による投資額低減等により、通期見通しを引き下げ

(単位：億円)

	FY20_Q3 累計	FY21_Q3 累計	前年比	FY20	*FY21 前回予想	FY21 予想	前年比	前回予想比
	a	b	b-a	c	d	e	e-c	e-d
設備投資額	282	248	▲34	400	450	380	▲20	▲70
減価償却費	240	256	+16	322	370	350	+28	▲20
研究開発費	155	156	+1	202	220	220	+18	-

\*2021/5/12公表

23 ページ、こちらは設備投資・減価償却費・研究開発費でございます。

設備投資は、昨今の需要動向を踏まえた実施時期の見直し、投資内容の再精査ということで、設備投資額そのものを低減することを行いまして、70 億円削減。380 億円に見直しいたします。

この結果、減価償却も、370 億円から 350 億円と、20 億円減少という予定です。

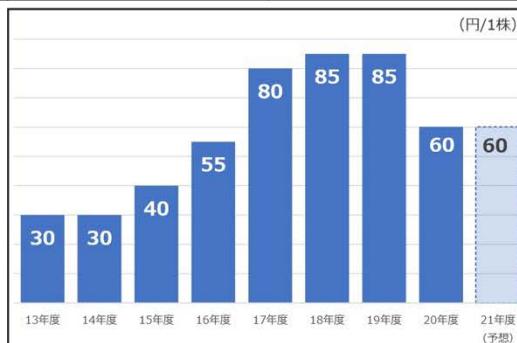
一方、研究開発は 220 億円、これは計画通りに進めておるところでございます。

# 配当予想について

■ 今年度の配当予想は、1株当たり60円（変更なし）

	19年度実績	20年度実績	21年度予想 (2021/5/14公表)
年間1株当たり配当金	85円	60円	60円

株主還元については、  
成長投資と財務体質改善との  
バランスをふまえながら、  
安定配当方針を継続いたします



※当社は、2016年10月1日付で普通株式10株を1株にする株式併合を実施しておりますので、本グラフに記載の13年度から15年度の配当金実績は、株式併合後の1株当たり配当金水準と一致させるため実際の配当金額を10倍にして表示しております。

続いて 24 ページ、配当予想についてでございます。

こちらは先にご説明させていただきました。60 円。こちらは安定配当ということで、据え置きをさせていただくということ  
でのご説明となります。

# 2022年度に向けて

- 自動車部品・電池事業（電装エレクトロニクス）の今年度一時的悪化要因の解消、情報通信ソリューション事業（インフラ）の課題改善および各事業における着実な成長需要の取込みにより、利益改善を果たす
- 半導体・材料不足やコロナ影響等の不透明要因や材料費・輸送費の高止まりなどはあるものの、外部環境の変化に迅速・的確に対応

2022年度 営業利益イメージ

単位：億円 セグメント	サブセグメント	FY20 実績	FY21 予想	FY22 予想	前提
インフラ	情報通信ソリューション	▲2	35	▲	光ファイバ・ケーブルの生産性、品種構成のさらなる良化 北米市場を中心とした需要の着実な取込み 販売価格水準適正化 合理化投資効果の発現
	エネルギーインフラ	▲19	15	▲	国内外の地中線、海底線案件の確実な取込み 再エネ・データセンタの電源関連製品（電線・部品）の拡大
電装 エレクトロニクス	自動車部品・電池	50	▲20	▲	コロナ影響等の一時的悪化要因を解消し、新車種への納入による成長を見込む
	電装エレクトロニクス材料	9	40	▲	車載およびエレクトロニクス関連製品の需要は概ね堅調 製品ミックス改善
機能製品		63	75	▲	半導体・データセンタ市場需要の着実な取込み 樹脂関連の販売価格水準適正化

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2022

25

最後、25 ページでございます。2022 年度に向けてという記載でございます。

現在、来年度の中計発表、2022 年度から 2025 年度までの中期計画策定中でございます。

数字の詳細はお話しできないんですけれども、われわれが進めようとしている方策、あとは数字の伸びのイメージ感というところでお示しております。

電装エレクトロニクス材料は、ほぼ現状の状況、堅調な状況が続くであろうと。

その他の事業は、改善を進めるもの、今のコロナ影響の一時的な影響から改善を進めていくもの等の施策により、しっかり改善を図ってまいります。

説明としては以上となります。ご清聴ありがとうございました。